

## CSR経営の全体像

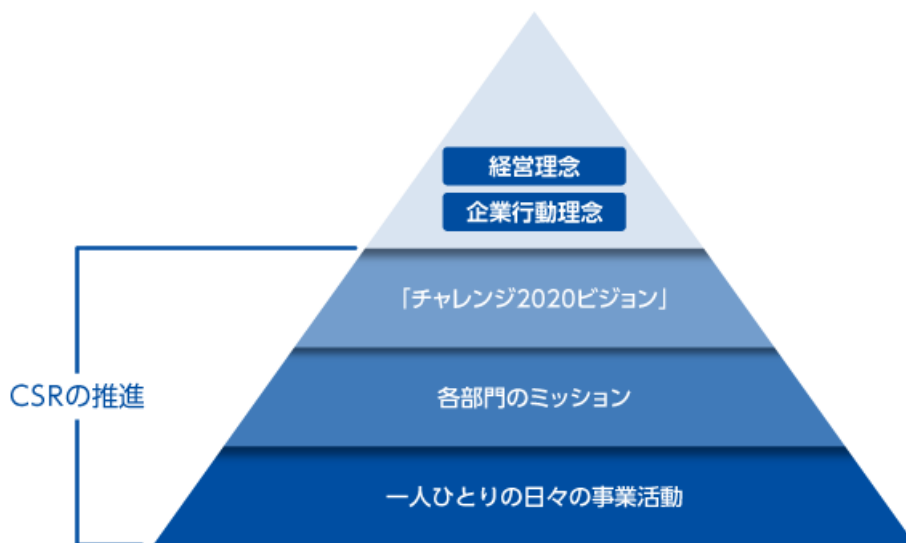
### CSR基本方針

東京ガスグループは、日々の事業活動を通じて経営理念・企業行動理念を実現し、公益的使命と社会的責任を果たすことをCSRの基本とする。

そして、国内外において、社会からの期待・要請を常に捉えながら、事業活動を通じて社会課題の解決に着手に取り組むことで、社会の持続的発展に貢献し、お客さま、株主の皆さま、社会からの信頼を永続的に得て発展し続ける東京ガスグループをめざす。

### CSRの推進と経営理念・企業行動理念の実現

東京ガスグループは、CSRの推進を経営理念・企業行動理念の実現そのものと考え、エネルギー事業者として公益的使命と社会的責任を果たし、日々の事業活動を通じて社会に貢献するという方針を掲げています。当社グループでは、変化する社会の期待や要請を常に捉えるとともに、事業の方向性と合わせて、CSRの重点活動と具体的課題（以下、マテリアリティ）を特定し、CSR指標を定め、事業活動を通じた取り組みを行っています。目標の達成状況については情報開示を行い、広くステークホルダーからの意見を収集し事業活動に反映させることでCSRマネジメントのPDCAサイクルを回し、社会の持続的発展に貢献していきます。



#### 経営理念

東京ガスグループは、天然ガスを中心とした「エネルギーフロンティア企業グループ」として、「快適な暮らしづくり」と「環境に優しい都市づくり」に貢献し、お客さま、株主の皆さま、社会から常に信頼を得て発展し続けていく。

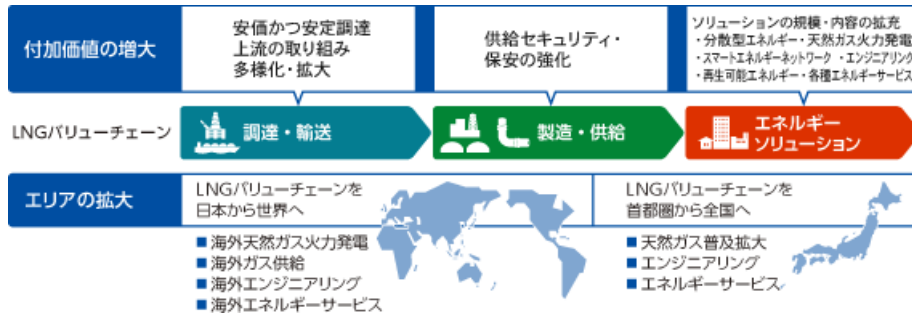
#### 企業行動理念

1. 公益的使命と社会的責任を自覚しながら、企業価値を増大させていく。
2. 常にお客さま満足の向上をめざし、価値の高い商品・サービスを提供する。
3. 法令およびその精神を遵守し、高い倫理観をもって、公正かつ透明な企業活動を行う。
4. 環境経営トップランナーとして、地球環境問題の改善に貢献する。
5. 良き企業市民として奉仕の精神を深く認識し、豊かな社会の実現に貢献する。
6. 絶えざる革新により、低コスト構造で、しなやか、かつ強靱な企業体質を実現する。
7. 一人ひとりの「能力・意欲・創意」の発揮と尊重により、「活力溢れる組織」を実現する。

<関連リンク>

▶ [東京ガスの「経営理念」](#) [「企業行動理念」](#) [「私たちの行動基準」](#)

## 「チャレンジ2020ビジョン」でめざすLNGバリューチェーンの高度化



▶ エネルギーと未来のために東京ガスグループがめざすこと。チャレンジ2020ビジョ

ン (PDF : 3,156KB)

▶ 「チャレンジ2020ビジョン」実現に向けた2015～2017年度の主要施策 (PDF : 688KB)

### ■ 国連グローバル・コンパクトへの署名

東京ガスグループでは、「チャレンジ2020ビジョン」の実現に向けて、さらに国際社会の良き一員として、グローバルな視点でCSRを推進すべく、2016年3月に国連グローバル・コンパクト (注) の支持を表明し、より高いレベルでのCSR経営をめざしています。

(注) 国連グローバル・コンパクト

1999年の世界経済フォーラムでコフィー・アナン国連事務総長 (当時) が提唱し、2000年にニューヨークの国連本部で正式に発足。「健全なグローバル化」「持続可能な社会」を実現させようとする国際的な取り組みであり、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野10原則を遵守・実践し、企業戦略や活動を展開していくことが求められる。



### ■ 持続可能な開発目標 (SDGs) への取り組み

2015年9月にニューヨーク国連本部において「国連持続可能な開発サミット」が開催され、150を超える加盟国首脳の参加のもと、その成果文書として「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択されました。このアジェンダでは、人間、地球および繁栄のための行動計画として、宣言および17の目標と169のターゲット「持続可能な開発目標 (SDGs)」を掲げており、企業も主体的に取り組むべきとされています。

東京ガスグループではこれまででも、国内外において、社会からの期待・要請を常に捉えながら、事業活動を通じて社会課題の解決に着実に取り組むことを「CSR基本方針」に定め、CSR活動を推進してきました。そしてSDGsの採択をふまえ、グローバルな社会課題と事業活動との関わりについて再整理を行っています。

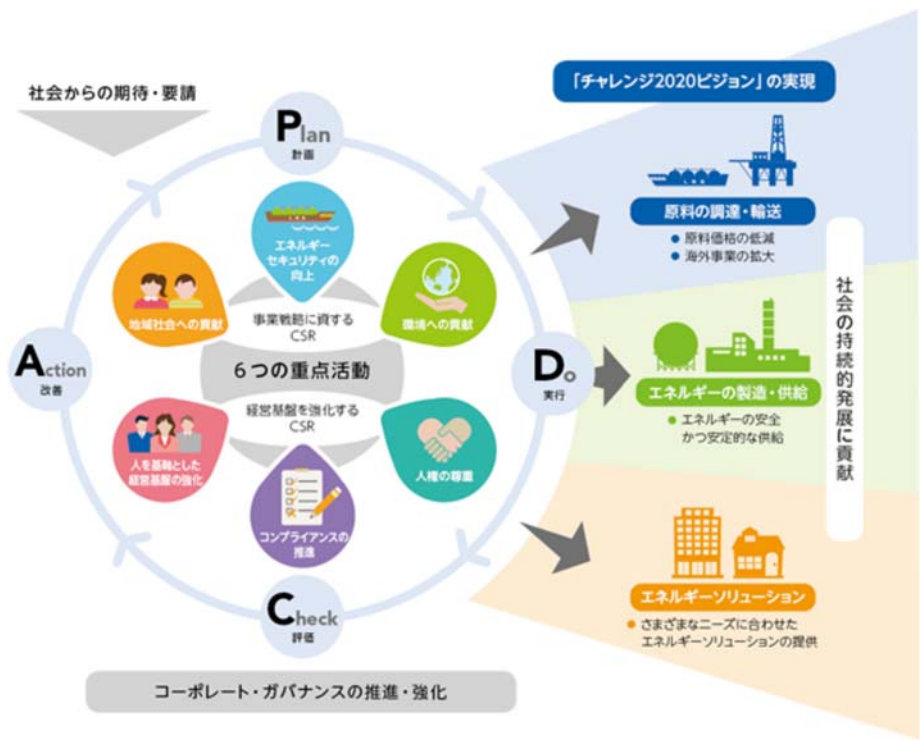
SDGsへの取り組みの第一歩として、グループ従業員一人ひとりがSDGsを理解するため、イントラネットを利用したクイズや、社外有識者を招き、社会課題と事業との貢献についてゲーム形式で学ぶセミナーを実施しました。引き続き、グループ従業員への浸透を図るとともに、今後も東京ガスグループでは、事業活動を通じて、社会課題の解決に向けて貢献していきます。



重点活動	マテリアリティ	関連するSDGs
エネルギーセキュリティの向上	安定的な供給	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
	安全の追求	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを
	より良い商品やサービスの提供	12 つくる責任 つかう責任
環境への貢献	温暖化対策	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう
	資源循環の推進	8 働きがいも経済成長も 12 つくる責任 つかう責任
	生物多様性保全の推進	6 安全な水とトイレを世界中に 14 海の豊かさも守ろう 15 陸の豊かさも守ろう
	環境関連技術開発の推進	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を
地域社会への貢献	安心・安全な暮らし・まちづくり	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを
	環境に良い暮らし・社会づくり	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう
	豊かな生活文化づくり	4 質の高い教育をみんなに 10 人や国の不平等をなくそう 12 つくる責任 つかう責任
人権の尊重	人権デューデリジェンス	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 16 平和と公正をすべての人に

コンプライアンスの推進	コンプライアンスの浸透・徹底	
	贈収賄の防止	
	個人情報保護	—
人を基軸とした経営基盤の強化	ダイバーシティの推進	
	人材育成	
	労働安全衛生	
共通	サプライチェーン・マネジメント	

■ CSRマネジメントのPDCAサイクル



<関連リンク>

- ▶ 東京ガスグループのCSR重点活動とマテリアリティ

## 天然ガスと都市ガスシステムの特長

東京ガスグループは、40年以上にわたりLNG/バリューチェーンの確立と高度化に取り組み、環境性・供給安定性・用途多様性に優れたエネルギーである天然ガスを中心に事業を展開しています。当社グループの基盤である天然ガスや都市ガスシステムの特長についてご紹介します。

### 天然ガスの特長

当社グループの都市ガスの原料である天然ガスは、さまざまな優れた特性をあわせ持っています。

#### ■ 環境優位性

天然ガスの大部分は、無色・無臭・透明のメタンガスです。燃やしたときに出るCO<sub>2</sub>の量が、石油や石炭などの化石燃料に比べると少ないのが特長です。また、光化学スモッグの原因となるNO<sub>x</sub>（窒素酸化物）の発生も少なく、ぜん息や酸性雨の原因となるSO<sub>x</sub>（硫黄酸化物）はまったく出ない、環境に優しいクリーンなエネルギーとして期待されています。

#### 石炭を100とした場合の排出量比較（燃焼時）



出典：「エネルギー白書2013」「エネルギー白書2014」資源エネルギー庁

<関連リンク>

- ▶ [ライフサイクルCO<sub>2</sub>からみた天然ガスの環境優位性](#)

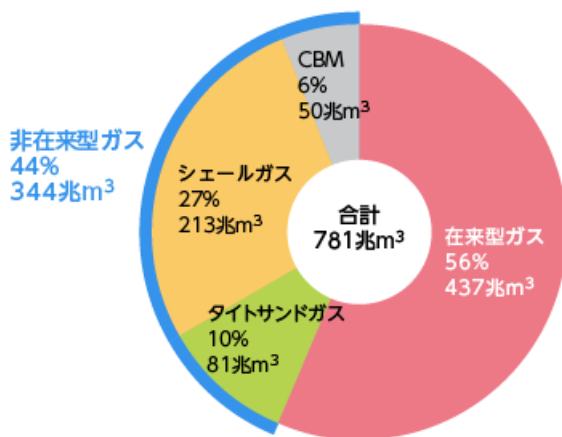
#### ■ 供給安定性

天然ガスは世界各地に豊富に埋蔵されています。近年、北米を中心に、シェールガスを含む「非在来型」の天然ガス開発が進んでいます。これは技術革新によって、これまで採算が合わなかった資源開発の商業化が可能となったため、より安価な天然ガスが、安定的に得られる可能性が広がり、「供給安定性」は大きく向上しています。

当社グループでは、主に東南アジアなどからLNG調達を行い、中東依存度が低いことが特長です。また、世界的にLNG需要が増加していますが、当社グループは上流ガス田プロジェクトに参画し、そのプロジェクトからLNGを引き取るなど、安定的かつ価格競争力のあるLNGの調達を行っています。

<関連リンク>

- ▶ [原料の調達](#)

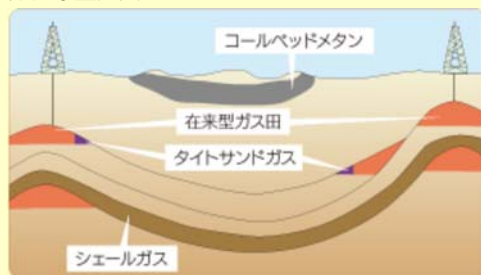


出典：IEA World Energy Outlook 2015

### 非在来型ガスの可能性

非在来型ガスとは、通常的气体田以外から産出するガスです。このうち、コールベッドメタンとは石炭が生成する際に発生したメタンを主成分とする天然ガスが、石炭に吸着された状態で地層内に保持されているものです。タイトサンドガスとは、堅くて無孔性の砂岩などに貯留されている天然ガスです。北米では、こうした非在来型ガス資源の開発が進んでいることから、米国では2009年にこれら3種類のガスで天然ガス生産量全体の約5割を占めるようになっており、2035年には7割以上を占める見通しが出されています。当社グループも、米国のバーネット、イーグルフォードにおけるシェールガス開発事業に参画しています。

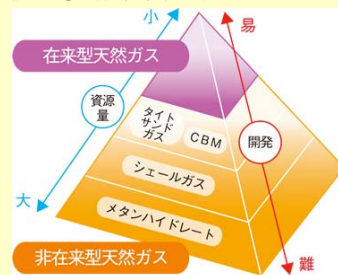
### 非在来型ガス



出典：JOGMEC

(注) CBM=コールベッドメタン

### 膨大な潜在ガス資源量

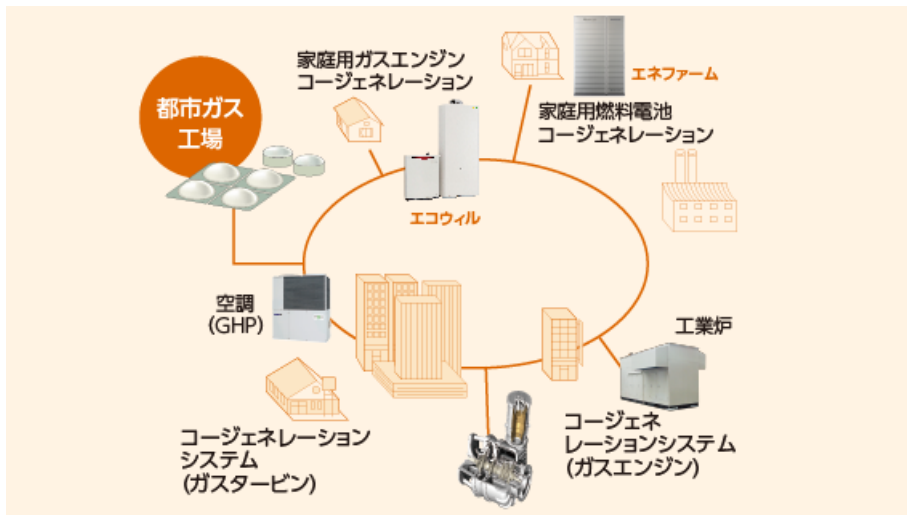


出典：JOGMEC NEWS vol.26

### ■用途多様性

天然ガスは、蒸気・熱・冷熱等のさまざまな利用形態に形を変え、都市・地域のさまざまなエネルギーニーズに効率よく柔軟に対応することができる優れた一次エネルギーです。エネルギーの需要地で熱と電気を同時に効率よく利用できるコージェネレーションシステムと組み合わせることで、地域全体におけるエネルギー供給の安定性、エネルギーシステムの分散化を推進し、低炭素社会の構築にも大きく貢献します。

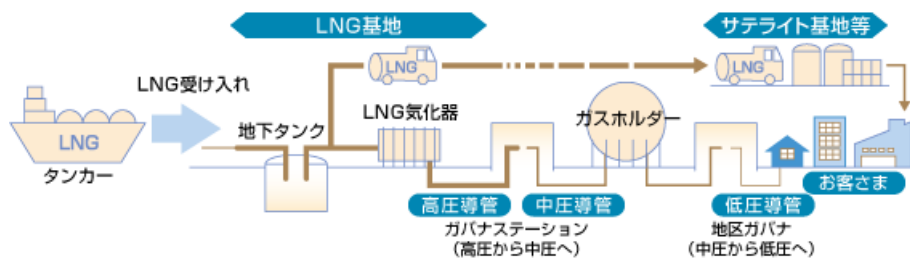




## 都市ガス供給の安定性と高効率性

当社グループは海外からLNGをタンカーで輸入し、LNG基地のタンクに貯蔵します。その後、気化・熱量調整したものを「都市ガス」として、総延長6万km以上におよぶ導管ネットワークを通じてお客さまへ供給しています。最新の知識や技術を結集したLNG基地や導管などの主要設備は、阪神・淡路大震災クラスの大地震（震度7）でも十分耐えられる構造になっています。天然ガスはLNG基地で気化し、都市ガスとしてパイプラインで送り出すため、消費地点までのエネルギー変換や輸送によるロスがありません。また、ガス導管が敷設されていない一部の地域には、LNGをローリー車で輸送し、サテライト基地等でLNGを気化して供給しています。

### 都市ガスの供給フロー



<関連リンク>

- ▶ [地震防災対策](#)

# 東京ガスグループのLNGバリューチェーンと社会の持続的発展に向けた主な取り組み

## 東京ガスグループのLNGバリューチェーンと社会の持続的発展に向けた主な取り組み

### 原料の調達

長期契約締結

5<sup>カ国</sup> / 12  
プロジェクト

LNG調達量

1,424.9 万t



ダーウィンLNGプロジェクト

#### 主な活動内容

需要に合わせた柔軟で競争力のある天然ガスの調達を実現するため、調達先・契約条件・LNGネットワークなどの多様化を推進するとともに、国内外のさまざまなプレイヤーとも連携しています。

#### 社会の持続的発展に向けた主な取り組み

- 安定的かつ安価をめざした原料調達
- LNG調達先ガス田・液化基地における温室効果ガス排出抑制
- LNG調達先周辺における生物多様性保全

### 原料の輸送

自社保有・管理船

10 隻

#### 主な活動内容

自社保有・管理船を活用して機動力のある輸送を行っています。



エネルギーホライズン号

#### 社会の持続的発展に向けた主な取り組み

- LNG船運航に伴う温室効果ガス排出抑制
- LNG船のバラスト水による生物多様性保全

### 都市ガスの製造

LNG基地の貯蔵能力

378.5 万kl



袖ヶ浦LNG基地



扇島LNG基地

### 発電

電源規模（自社持分）

160 万kW



(株) 扇島パワー



川崎天然ガス発電  
(株)





根岸LNG基地



日立LNG基地

### 主な活動内容

LNGを受け入れ、都市ガスを安定的に製造し、首都圏のエネルギーセキュリティに貢献しています。4つのLNG基地（根岸・袖ヶ浦・扇島・日立）では、万が一、停電などのトラブルが発生した際にもお客さまに安定的に都市ガスをお届けできるよう、相互のバックアップ体制を整えています。

### 社会の持続的発展に向けた主な取り組み

- 安定供給のためのLNG基地の貯蔵能力増強および整備
- 自然災害等による製造トラブルの防止
- 都市ガスの製造における温室効果ガス排出抑制、資源循環の推進、生物多様性保全



(株)東京ガス横須賀パワー



(株)東京ガスベイパワー



袖ヶ浦LNG基地内の風力発電設備

### 主な活動内容

LNG調達力やLNG基地・パイプライン等の設備を利用して、高効率コンバインドサイクルによる天然ガス火力発電所を運営しています。また、風力発電などの再生可能エネルギーによる発電にも取り組んでいます。

### 社会の持続的発展に向けた主な取り組み

- 電力安定供給のための設備増強および整備
- 土壌汚染対策
- 発電所における温室効果ガス排出抑制、生物多様性保全

## 都市ガスの供給

(注) 当社のガス導管網は、ガス小売事業者が共通で使用します。

導管総延長

63,062 km



高圧ガス導管



LNGローリー車

### 主な活動内容

都市ガスを安全かつ安定的にお届けするために、さらなる導管網の整備を進めるとともに、LNGローリー車、内航船による供給を行っています。また、他のガス事業者への卸供給も展開しています。

### 社会の持続的発展に向けた主な取り組み

- 安定供給のための導管網の整備と保安の確保

## 送電（一般送電事業者による）

(注) 一般送電事業者の送電網を使用して供給します。

- 自然災害等による供給トラブルの防止
- ガス管理設時の掘削土排出抑制・資源循環の推進

## エネルギーソリューション

### ガス販売量

15,720 百万m<sup>3</sup>



家庭用  
3,466百万m<sup>3</sup>



業務用  
2,709百万m<sup>3</sup>



工業用  
7,293百万m<sup>3</sup>



他事業者向け供給  
2,252百万m<sup>3</sup>

### お客さま件数（ガス）

1,153.6 万件



### 電力販売量

126.5 億kWh

### お客さま件数（低圧電力）

72.8 万件

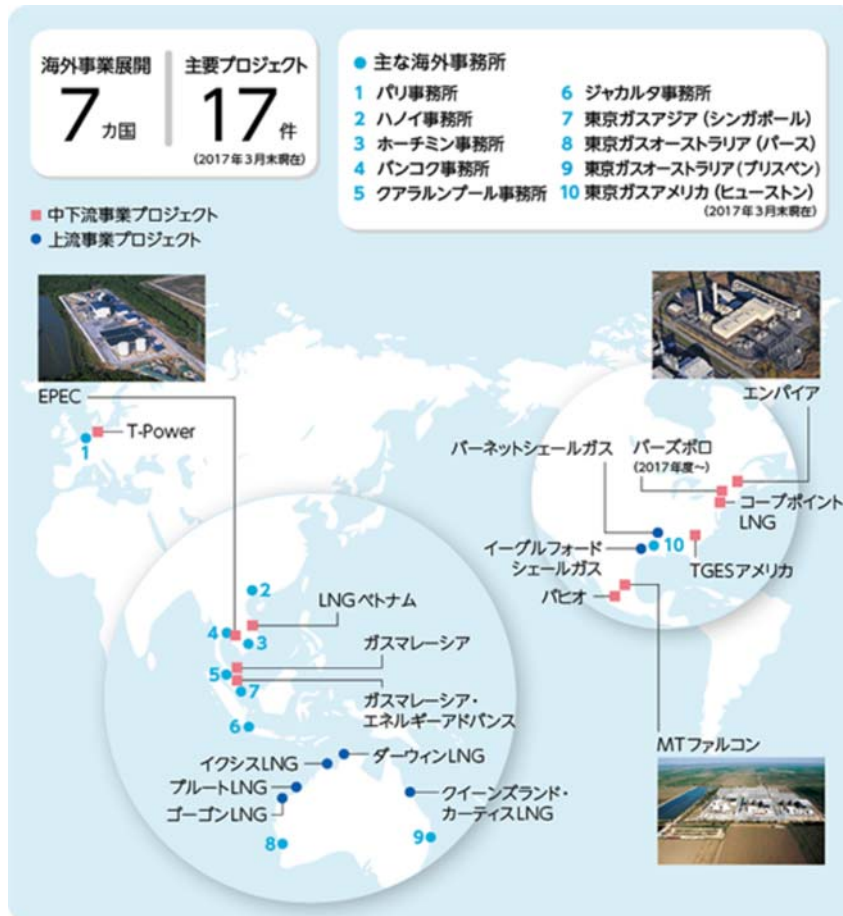
#### 主な活動内容

省エネ、省CO<sub>2</sub>、電力ピークカットに貢献する燃料電池やガスコージェネレーションシステムなどの分散型エネルギーシステムや、環境に配慮したガス機器の普及・拡大、再生可能エネルギーと組み合わせた最適なエネルギーソリューションの提案を進めています。また、ガス・電気といったエネルギー販売に加え、お客さまの暮らしを豊かにする新たな価値・サービスもあわせて提供します。

#### 社会の持続的発展に向けた主な取り組み

- お客さま先の安全確保
- お客さま先での温室効果ガス排出抑制、資源循環の推進
- 地域社会の課題解決への貢献
- お客さまの個人情報保護
- お客さまに満足いただける対応や品質の確保

海外事業の展開



⊕ 拡大

主な活動内容

大規模LNGプロジェクトからの調達および権益取得に加え、シェールガスなどの非在来型ガス、中小規模LNGプロジェクトへの取り組みなど、調達先や海外上流事業のさらなる多様化・拡大を進めています。また、東京ガスグループの総合エネルギー事業に関わる技術・ノウハウを活かし、東南アジア・北米を中心に、海外で事業展開するお客さまへのエネルギーソリューションの提案や、現地のエネルギーインフラ構築にも取り組んでいます。海外にもLNGバリューチェーンを構築することで、日本向け原料調達の柔軟性を確保するとともに当該国でのエネルギーの安定供給に貢献していきます。

社会の持続的発展に向けた主な取り組み

- エネルギーインフラの構築
- 外国公務員贈収賄防止
- 地域社会の課題解決への貢献

LNGバリューチェーン共通の社会の持続的発展に向けた主な取り組み

- コーポレート・ガバナンスの充実・強化
- 人権の尊重
- コンプライアンスの推進
- 情報セキュリティの確保
- 従業員の労働安全衛生の推進
- グローバル人材の育成
- 安全や環境貢献に資する技術開発の推進

## 東京ガスグループのCSR重点活動とマテリアリティ

## 東京ガスグループのCSR重点活動とマテリアリティ

東京ガスグループは、事業を通じてCSR活動を推進するにあたり、CSRの重点活動ごとに目標を設定し、活動の改善を図ってきました。

2014年10月に、「『チャレンジ2020ビジョン』実現に向けた2015～2017年度の主要施策」（以下、主要施策）が策定されたことを踏まえ、社会の期待をもとにCSR重点活動の見直しを行い、GRIガイドラインの手順に沿って、活動ごとに優先的に取り組むべき具体的な課題（マテリアリティ）を特定しました。

重点活動およびマテリアリティは、毎年度、ステークホルダーの意見などを踏まえレビューを行うことで見直しを実施しています。レビューの結果、2017年度は、6つの重点活動共通のマテリアリティとして「サプライチェーンマネジメント」を追加しています。また「地域社会への貢献」のマテリアリティの見直しを行い、これまでの「豊かな社会の実現」を、「環境に良い暮らし・社会づくり」「豊かな生活文化づくり」とし、継続して取り組みを行っています。

引き続き、各マテリアリティの取り組みの評価・改善を行い、PDCAサイクルを推進していきます。

## ■ マテリアリティ特定・再検証のプロセス

## STEP 1

## 社会課題の特定

■ GRI 第4版、ISO26000など組織の社会的責任に関する代表的な国際的ガイドラインから、検討すべき課題を包括的に抽出。

■ 当社グループのLNGバリューチェーンごとに事業特性や事業戦略、影響範囲をもとに、社会課題（CSR関連課題）に関する影響度を整理し、重要課題側面を絞り込み。

## STEP 2

## 優先順位づけ

■ STEP1で絞り込んだ重要課題側面について

- アンケート調査等をステークホルダーの視点として評価。
- 関連する部門にて優先順位を仮定。

■ ステークホルダー視点と自社視点による重要性の評価結果についてマッピング。

社内協議により、当社グループが優先的に対応すべき重要課題側面を特定。

## STEP 3

## 妥当性確認・確定

■ 特定された重要課題側面の妥当性について、各分野の有識者により評価。

■ 当社グループのCSR重点活動を見直すとともに、活動ごとに重要課題側面をマテリアリティとして整理。

■ 企業コミュニケーション推進会議（CSRの推進会議体）での承認をもって確定。

■ 関連する部門と特定したマテリアリティについて目標（以下、CSR指標）を決定。

## STEP 4

## レビュー

■ CSR指標に基づきマテリアリティに対する活動評価を行い、CSRレポートに開示。

■ 年度ごとに、社内外のアンケート、SDGsなどの国際的目標・ガイドライン、外部有識者からいただいたご意見等を踏まえて、レビューを実施。

■ これらをマテリアリティやCSR指標の見直し、事業への反映、報告内容の改善に活用。

## マテリアリティ 特定の根拠

ステークホルダー視点	自社視点
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国際的なガイドラインの要請事項</li> <li>● ステークホルダーからのご意見 (各種アンケート、有識者意見、社員意識調査など)</li> <li>● 金融関連調査機関のアンケート・評価項目</li> <li>● 環境面のインパクト分析</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループの経営戦略(注)との関連における優先度(影響度の大きさ、緊急性の高さ)</li> </ul> <p>(注) 主要施策(総合エネルギー事業の進化・グローバル展開の加速・新たなグループフォーメーションの構築)</p>

### ■ 有識者からのご意見

#### 赤羽 真紀子氏 (CSRアジア 日本代表)

##### 6つの「CSR重点活動」および17の「具体的課題(マテリアリティ)」について

- マテリアリティや重点活動は、網羅的で過不足なくまとめられているが特徴が出ていないと思う。今後は「安全」や「災害対応」など、東京ガスらしさが分かるくらい特徴が出ると良い。
- まちづくりやユーティリティという分野で注目されているテーマは、SDGsに示されている。17のゴールは「誰も取り残さない」というテーマがあって成り立っており、海外では「エネルギーにアクセスできない人を作らない」という「Access to Energy」をテーマに掲げている企業もある。今後も国内事業の比率が高いことは変わらないのであれば、日本の高齢化が進んでエネルギーにアクセスできない人が出てくる可能性があることを踏まえ、エネルギーを将来にわたって安定して届けるために必要な施策を考える良い機会だろう。
- 環境への配慮はエネルギー会社にとって重要な取り組みである。東京ガスの持続可能性や将来予測、クリーンエネルギーの拡大、資源の争奪戦への備え、バイオエネルギーといった代替エネルギーのスタンスも問われるようになる。様々なエネルギー供給源があるなか、天然ガスの優位性も先んじて全面に出すことも必要ではないか。

##### 社会インフラ企業としてESGの取り組みについて

- 投資家がサステナビリティやESGを意識するのは、将来の成長戦略の有無を見ることが目的である。日本のアセットオーナーたちは、その企業が成長するのか、成長の源泉があるかどうかを見極めたいと考えている。エネルギーパートナーとして消費者や取引先と協力して、成長していく姿勢が見えれば投資家は評価する。
- ESG投資家と他のステークホルダーでは要望は異なると思うが、安全に関わる部分は日本の投資家もあたりまえだと思っている部分があるかもしれないので、もっと強く出しても良いのではないかと。

##### 地域への貢献について

- オイル&ガスの会社としてグローバルで注目されるのは、まず環境で次に人権である。認知度が低い海外では、東京ガスをアピールする必要があり、その際に地域社会への貢献(地域投資)を通じて、地域にメリットがある会社であることを伝えると、事業を展開しやすい。

#### 國部克彦氏 (神戸大学大学院 経営学研究科教授)

##### 電力・ガス小売り全面自由化を踏まえた事業環境や方向性について

- 公益企業にとって持続可能性に貢献することはCSRの大きな柱。電力・ガスの小売全面自由化といった事業環境を踏まえ、エネルギーセキュリティや地域社会への責任も果たす必要がある。
- ガスや電気は使用段階では品質の差が分からないので、コストや付帯サービスで差別化する必要がある。そのため地域貢献や顧客満足のための取り組みが重要になるが、東京ガスでは社会に対する「共通価値の創造」をあまり強調していない印象がある。
- 財務面だけでなく社会にとっての価値創造が自社にとっての価値増加にもつながるというのが、共通価値創造の基本である。東京ガスのような公益企業にはこういった考え方が合うのではないかと。価格競争だけでなく社会価値でも競争できると良い。

##### 6つの「CSR重点活動」および17の「具体的課題(マテリアリティ)」について

- ガス業界では、BCP(事業継続計画)・BCM(事業継続マネジメント)や海外展開が今後重要になっていく。BCPで終わるのではなく、BCMまで展開することが重要であり、非常時にガスを供給するだけでなく、消費者が実際に使えるところまで支援することが期待される。BCP・BCMでは、サプライチェーンの協力が不可欠のため、一緒になって動ける体制をCSRと連携して整えるのが理想的である。
- 特に東北で早くに復興した企業は、自社だけでなくサプライチェーンとの関係が密接だった。広範な地域を対象としている東京ガスは、自社のサプライチェーンだけでなく地域全体の復興を支援できる立場にあるため期待している。



## SDGsへの対応について

- MDGsからSDGsになり、企業の協力も要求されるようになったが、まだ普及途上の状況。啓発の意味も込めて、コミュニケーション活動のなかでSDGsについて情報発信していくのも良いのではないか。
- 17の目標・169のターゲットと事業との関連性を整理し、すでに実施したプロセスを開示することが第一段階としては重要で、そこからさらに必要とされている活動を拡充することが望まれる。
- SDGsの目標に「企業が取り組む」というのであれば、社外の目標を社内に採り入れる「アウトサイドイン」のアプローチをとる必要がある。ただし、一社ですべてやるのは難しいので、マテリアリティの特定を通じて貢献する分野を特定するのが良い。
- 特定した6つの重点活動があるが、エネルギーセキュリティなどの「課題」と、人権や地域社会などの「テーマ」は分けて考えるべきである。地域社会の問題に取り組むには、その課題が何なのかから考える必要がある。

### 水尾順一氏（駿河大学経済経営学部教授）

## SDGsへの対応について

- SDGsとCSVのつながりについて見たとき、東京ガスの海外事業エリアのなかで、SDGsとの関連が深いのはアジア地域。これをCSVという視点で捉えると、新しいビジネスの芽が出てくるだろう。
- すでに実施されている社員の啓発は重要な取り組みである。今後拡大していくSDGsとCSVの連携に、社員がどう関わっていくか、関われるようにどう啓発していくかがポイントになる。ESD（持続可能な開発教育）という考え方もあり、啓発によってSDGsが社員に浸透し、現場と本社が連携するようになると、現場の意見が上がってくるようになる。そうすると、現場のノウハウを活用してSDGsに貢献できるようになるのではないか。
- 現場がSDGsに対する意識を持っていると、現場の知恵が活かされる。商品化や事業化にもつながった他社事例もあり、東京ガスでもグループのネットワークで小集団活動としてESDと連携していくこともできるのではないか。事業会社間を横断的に横展開することで、SDGsに貢献できる事業が生まれる可能性がある。

## CSRとCSVについて

- ガス・電力の小売全面自由化を迎えるなど、東京ガスを取り巻く情勢は大きく変化している。企業が重点的に取り組むべきテーマは、社会動向やステークホルダーの要請等によって変わるものであるが、CSRそのものは核となるもので普遍的な価値を持ち、今後も永続的に求められる。一方、社会的課題の解決と経済的価値の向上を同時に実現するCSVという概念に注目が集まっており、今日的課題でもある。コンプライアンスがその底流にある本来のCSRをこれからも大切にしつつ、今日的課題へも対応が望まれる。

## 働き方改革について

- 地域社会との連携、人権、労働問題が世界的に大きなテーマになっている。日本でも「労働CSR」という領域で、長時間労働の削減やワークライフバランスの実現などの「働き方改革」が注目されている。厚生労働省も注力している分野で、今後、企業としてより一層の対応が求められるだろう。
- 働き方改革では、「見ざる、聞かざる、言わざる」の『三猿』の壁を打破し、トップやリーダーが職場の実態を見て、部下の声に耳を傾け、対話をするといった「見る、聞く、話す」が重要である。



# マテリアリティ分析マップと重点活動との整理

6つの重点活動とマテリアリティ	
1 エネルギーセキュリティの向上	▶ 安定的な供給 ▶ 安全の追求 ▶ より良い商品やサービスの提供
2 環境への貢献	▶ 温暖化対策 ▶ 資源循環の推進 ▶ 生物多様性保全の推進 ▶ 環境関連技術開発の推進
3 地域社会への貢献	▶ 安心・安全な暮らし・まちづくり ▶ 環境に良い暮らし・社会づくり ▶ 豊かな生活文化づくり
4 人権の尊重	▶ 人権デューデリジェンス
5 コンプライアンスの推進	▶ コンプライアンスの浸透・徹底 ▶ 贈収賄の防止 ▶ 個人情報保護
6 人を基軸とした経営基盤の強化	▶ ダイバーシティの推進 ▶ 人材育成 ▶ 労働安全衛生

サプライチェーン・マテリアリティ

マテリアリティ分析マップ



特定した重要課題側面を当社グループの重点活動とマテリアリティとして整理

整理

**特定した重要課題側面**

■ 埋蔵資源	■ 人権デューデリジェンス
■ 顧客の安全衛生	■ 顧客プライバシー
■ 製品およびサービスのラベリング	■ 腐敗防止
■ 大気への排出/エネルギー	■ 社会面・環境面でのコンプライアンス
■ 排水および廃棄物	■ 多様性と機会均等/ダイバーシティ(雇用)
■ 生物多様性	■ 研修および教育
■ 製品およびサービス	■ 労働安全衛生
■ 地域コミュニティ	□ サプライヤーの評価 (環境/労働慣行/人権/社会への影響)
■ 持続可能な消費	

■ 地域での存在感	■ 地域における水源	■ 労働慣行に関する苦情処理制度
■ 調達慣行	■ 汚染の予防	■ 従業員満足
■ 原材料	■ 労使関係	■ 差別および社会的弱者

■ 間接的な経済影響	■ 社会への影響に関する苦情処理制度
■ 環境全般	■ 資産安全管理とプロセス安全
■ 環境に関する苦情処理制度	■ 教育および文化
■ 労働条件および社会的保護	■ 健康促進
■ 公共政策	■ 情報開示
■ 反競争的行為	

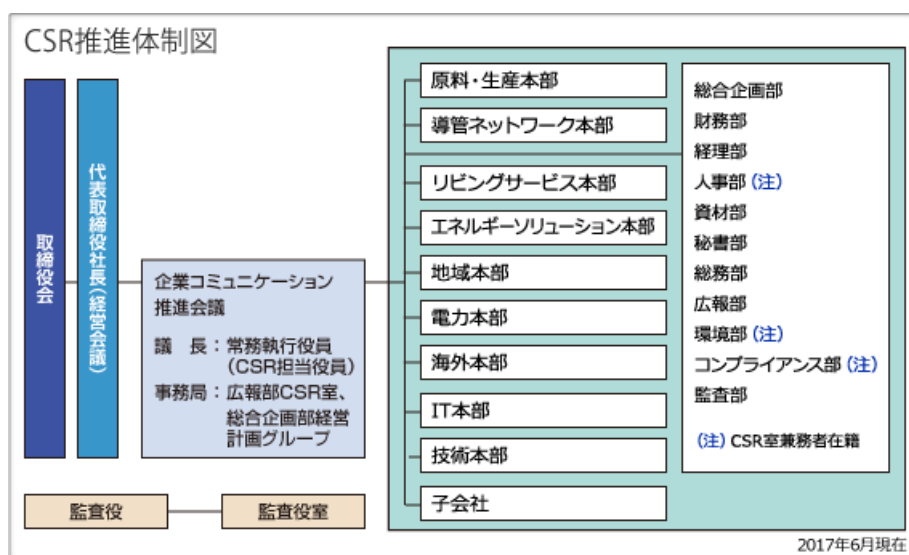
# CSR推進体制と実践に向けて

## CSR推進体制

東京ガスは、2004年10月にCSR担当役員を議長とした「CSR推進会議」を、同年12月には広報部にCSR室を設置し、CSR推進体制を構築してきました（「CSR推進会議」は2011年度に「企業コミュニケーション推進会議」に移行）。

本会議は、CSR経営を推進するため、各本部企画担当部長および関係各部長19名で構成されており、「チャレンジ2020ビジョン」（以下、ビジョン）を踏まえたCSR重点活動の見直しやマテリアリティの特定、その取り組み状況等について共有・議論するなど、当社グループにおけるCSRに関する重要事項について協議しています。本会議での検討事項は経営会議・取締役会に報告され審議・決定されます。

事務局を務めるCSR室は、ステークホルダーダイアログやCSRレポート公開など広報・広聴活動を通じて把握した「社会の期待」について、本会議を通じてグループ内に働きかける役割を担っています。また、研修会を企画・実施し、CSRの意識や行動の啓発を行うとともに、CSR重点活動の事例紹介などを通じて、ビジョンの実現に向けた取り組みについて理解を促し、当社グループとしての方向性を従業員が共有できるよう努めています。



<関連リンク>

▶ [コーポレート・ガバナンス](#)

## CSRの実践に向けて

当社グループでは、研修会をはじめ、当社グループのCSRと重点活動をまとめた小冊子の配布やポスター掲示、イントラネットやグループ内広報誌でのCSR情報の発信により、従業員が本業を通じて実現するCSRを理解し、日々の仕事のなかで実践できるよう、意識啓発に努めています。



東京ガスグループのCSRをまとめた小冊子



重点活動を従業員の働く姿（写真）で伝えるポスター

## ■ CSR研修会

階層別研修、職場別研修などにおいて、CSRの意識啓発研修を実施しています。

2011年3月には、CSR研修カードゲーム「毎日がCSR。」(注)をNPO法人プラス・アーツと共同開発し、研修会が自分と社会とを結びつけ、「CSRを身近に」そして「楽しみながら主体的に参加し考える」機会となるよう努めています。

(注) CSR研修カードゲーム「毎日がCSR。」とは、「日々の事業活動を通じ、どのように社会からの期待に応えているか」を参加者一人ひとりが考え、自分の言葉で語ってもらうゲーム。



CSR研修カードゲーム「毎日がCSR。」

## 2016年度の研修実績

	対象者など	実施回数、実施場所
階層別研修	入社時、3年目、管理職昇格者など (人事部、コンプライアンス部主催研修)	31回
管理者研修	新任ポスト者 (人事部主催研修)	2回
職場別研修	研修を希望した職場 (CSR室が企画・実施)	5回(うち関係会社2社)
ワークショップ	参加希望者 (CSR室が外部講師を招き、企画・実施)	1回

## ■ CSR研修カードゲーム「毎日がCSR。」を活用した研修会

各職場からは、「楽しみながらCSRの理解を深められた」「会社や自分の仕事が社会と密接につながっていることがよく分かった」等の感想が寄せられています。



カードゲームの様子

# ステークホルダーエンゲージメント

## ステークホルダーエンゲージメント

東京ガスグループはさまざまなステークホルダーの皆さまと関わりながら、日々の事業活動を通じてCSRを推進しています。

持続可能な経営を行っていくために、会社情報を適時・適切に開示するとともに、皆さまのご意見、CSRレポートのレビュー、社外有識者との意見交換のほか、業務機会を通じたコミュニケーションを推進し活動に反映させています。

ステークホルダー	主な期待・要請	東京ガスグループの主な対応	エンゲージメントやコミュニケーション機会の一例
お客さま	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーの安定供給</li> <li>エネルギーや商品の安全性、品質確保</li> <li>適切な商品・サービスの情報提供</li> <li>環境保全に関する情報や、環境に配慮した商品・サービスの提供</li> <li>お客さま満足度の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種お申し出や意見・お問い合わせの受付</li> <li>ご意見に基づいた改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガス設備定期保安点検</li> <li>検針</li> <li>ガス機器の修理</li> <li>地域のサービス窓口（東京ガスライフバル、エネスタ、エネフィット）</li> <li>お客さまセンター（電話・メール）</li> <li>お客さまの声ハガキ</li> <li>お客さま満足度調査</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>都市ガスの安定供給や防災の取り組みの情報提供・理解促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>LNG基地や防災施設の見学会</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーや環境、住宅設備・機器に関する情報提供</li> <li>当社グループの環境の取り組みの情報提供・理解促進</li> <li>環境保全活動の体験機会の提供</li> <li>快適な住まいと暮らしの提案</li> <li>料理教室の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>がすてなーに ガスの科学館</li> <li>ガスミュージアム ガス資料館</li> <li>新宿ショールーム</li> <li>横浜ショールーム</li> <li>キッチンランド</li> <li>ガス展</li> <li>各種イベント・セミナー</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーや設備機器、各種サービスの情報提供</li> <li>食や省エネ・節約など生活に役立つ情報の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページ</li> <li>メールマガジン</li> <li>Facebook</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業価値の維持・向上</li> <li>適正な株主還元</li> <li>適時・適切な情報開示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>業績動向、財務状況の情報開示</li> <li>当社グループの活動状況・計画の説明</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>株主総会</li> <li>決算説明会</li> <li>個人投資家向け説明会</li> <li>機関投資家個別ミーティング</li> <li>個人株主向け施設見学会</li> <li>アニュアルレポート・インベスターズガイド</li> <li>株主通信（株主の皆さまへ）</li> <li>Webサイト上のIR情報開示</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>各国・地域の社会課題解決への貢献</li> <li>次世代への教育支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当社グループの防災の取り組みに関する情報提供・意識啓発</li> <li>安全・安心な暮らしのための情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の各種活動</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>● ご意見・ご要望の把握、取り組みへの反映</li> </ul>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災に関する情報提供・意識啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● NPOと協働した防災イベント</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境保全活動に対する助成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境活動団体の支援「東京ガス環境おうえん基金」</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーや環境に関する情報提供・理解促進・体験機会の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校教育支援活動「出張授業」「先生向け研修会」「校外学習・教材・学習サイトを活用した情報提供」</li> <li>● 体験型環境教育「どんぐりプロジェクト」</li> <li>● 次世代教育「火育」</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本障がい者スポーツ協会のオフィシャルパートナーとしての諸活動</li> <li>● サッカー指導や大会の開催など体験機会の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障がい者スポーツ支援</li> <li>● サッカークリニック</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● グループ従業員および家族のボランティア活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東日本大震災の被災地支援活動</li> <li>● 使用済み切手・カード、書き損じはがきの収集・寄付</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 東京2020大会への貢献</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「東京2020オフィシャルパートナー（ガス・ガス公共サービス）」としてのサポート活動</li> </ul>
行政機関・自治体	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 税金の納付</li> <li>● 法律や条例の遵守</li> <li>● 社会課題の解決に向けた公共政策や諸活動への協力</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 防災の取り組みの推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自治体の防災イベント</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 本業を通じた低炭素なまちづくりへの参画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● スマートタウン開発</li> <li>● 既存市街地の活性化や団地再生</li> <li>● 再開発事業を通じた、スマートエネルギーネットワークの展開</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会課題の解決や政策推進のための情報提供</li> <li>● 行政機関・自治体の委員会・研究会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エネルギーや環境、まちづくりに関する講演会等の実施</li> <li>● 環境審議会などの会議体</li> </ul>
お取引先	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公平で公正な取引</li> <li>● CSR調達の実践</li> <li>● より良いパートナーシップづくり・情報共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基準や方針などの開示による公正かつ公平な取引機会の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Webサイト上での「購買の基本方針」「取引先購買ガイドライン」開示</li> <li>● お取引先向けの説明会</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● CSR取り組み状況の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お取引先向けのCSR取り組み調査</li> <li>● お取引先との意見交換・協議</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● お取引先と共同した商品力・品質の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「お取引先企業感謝の集い」での表彰</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当社の事業に関する理解促進の場の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● お取引先向け施設見学会</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公正な取引に向けた協議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 資材・原料調達先との協議・取引項目の確認</li> </ul>
大学・研究機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会課題やより良い暮らし・社会づくりへの協働</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業活動を通じた社会課題やより良い暮らし・社会づくりに資する調査・研究</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保安・検針・安全サービス等に資する共同研究</li> <li>● 環境保全、災害対応・健康被害防止、地域経済活性化に資する共同研究</li> <li>● 省エネや健康維持・向上に資する共同研究</li> <li>● 超高齢社会におけるより良い暮らしに資する共同研究</li> </ul>

グループ従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>働きやすい職場づくり</li> <li>ダイバーシティ推進</li> <li>人材育成推進</li> <li>労働安全衛生</li> <li>環境保全に関する情報提供・意識啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な人材の活躍推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性キャリア開発セミナー</li> <li>LGBTセミナー</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内の各種情報の共有・理解促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>社長メッセージ発信</li> <li>グループ会社状況報告会、総会</li> <li>職場コミュニケーション活動</li> <li>グループ内広報誌、イントラネット</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員の能力開発</li> <li>キャリアプランの相談</li> <li>自己啓発支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>上長との定例面接</li> <li>各種研修</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内のコンプライアンスや人権などに関する相談の受付・対応</li> <li>従業員の意識の把握</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談窓口（コンプライアンス・人権等）</li> <li>従業員意識調査</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>労働安全衛生に関する情報提供・意識啓発</li> <li>メンタルヘルス対策や生活習慣病予防対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全衛生に関わる会議・研修</li> <li>健康保持増進の取り組み</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内の環境の取り組みを共有</li> <li>環境保全に関する情報提供・意識啓発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ環境表彰制度</li> <li>グループ内研修会・見学会・講演会</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>労使関係の安定・向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>労使間意見交換・協議</li> </ul>

#### ■ステークホルダーの窓口

株主・投資家	株主・投資家向け情報
地域社会	<p>お問い合わせ：個人（ご家庭）のお客さま  東京ガスお客さまセンター  もよりのサービス窓口  東京ガスショールーム  FAX受付サービス（耳やことばの不自由なお客さま向け）  インターネットによるお問い合わせ</p>
行政機関	所管分野の担当部門
従業員	東京ガス労働組合、コンプライアンス相談窓口

#### ステークホルダーダイアログ

東京ガスは、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーション・対話を通じて、東京ガスグループの事業活動全般へのご意見・ご要望をお聴きし、それらを日々の活動の改善につなげていくことによって、社会的責任を着実に果たし成長していく企業グループでありたいと考えています。

日々のあらゆる場面において、さまざまなお立場から、多岐にわたるご意見をいただきました。私たちは、それらステークホルダーの皆さまの声をできる限り事業活動に反映していくよう、継続して努めていきます。



## ステークホルダーダイアログ2016

### 「お取引先とともに持続可能な社会に向けて」

総合エネルギー企業として事業を拡大するとともに、グローバルな地域展開を進めるなか、事業活動で責任範囲が拡大しています。

このような状況において、お取引先と協働して、品質や価格だけでなく環境、人権・労働環境などに取り組むためにサプライチェーンマネジメントを実施することがますます重要になっています。

そこで2016年度のステークホルダーダイアログは、ロイド レジスター クオリティ アシユアランス リミテッド事業開発部長の富田秀実氏をお招きし、東京ガスの主な調達分野である原料調達や資材調達を中心に、東京ガスグループとしてCSRに配慮した調達に取り組むうえで必要となる視点や課題について意見交換を行いました。



### ダイアログ開催概要

**開催日** 2016年7月6日（水）

**場所** 東京ガス本社

**出席者** 社外有識者 **富田 秀実氏**  
ロイド レジスター クオリティ アシユアランス リミテッド 事業開発部長

ファシリテーター（進行） **山吹 善彦氏**  
株式会社シータス&ゼネラルプレス コミュニケーション革新部長

東京ガス参加者

**沢田 聡** **玄間 隆之**  
常務執行役員（CSR担当役員） エネルギー生産部長

**斉藤 彰浩**  
総務部長

**岡出 真之** **木本 憲太郎**  
お客さまサービス部長 執行役員原料部長

**花田 浩**  
広報部長

**野口 尚史** **沢田 和昌**  
リビングマーケティング部長 IT活用推進部長

**中村 恒明**  
環境部長

**西形 進也** **笹山 晋一**  
エネルギー企画部長 執行役員総合企画部長

**反町 佳生**  
コンプライアンス部長

**柴田 陽一** **長谷部 圭一**  
地域企画部長 人事部長

**花田 修一**  
広報部CSR室長

**原文比古** **小池 俊一**  
執行役員導管企画部長 資材部長

※社名・役職は開催当時

## <有識者略歴>

### 富田 秀実（とみたひでみ）氏

東京大学工学部卒、プリンストン大学修士修了。ソニー株式会社のCSR部発足当初から統括部長を約10年務める。ISO26000策定のワーキンググループでは、タスクグループの座長に就任し、規格策定後はISO26000 PRO-SAGのメンバーとして活動。GRIグローバルサステナビリティ標準化ボード（GSSB）で新たな開示基準の策定、ISO20400「持続可能な調達」の規格策定の日本代表エキスパートも務める。



### 東京ガスグループへの期待

ビジョンで掲げられている事業構造の変革および事業基盤の拡大を推進しているとのことですが、ガス事業の独自性や事業内容の多様性を考えると、各事業におけるサプライチェーンのリスク分析を進めていくことが大切です。「CSRに配慮した調達に向けたステップ」の図には示されていませんが、最も重要であるリスク分析を東京ガスグループのサプライチェーンマネジメントの第一ステップにしてほしいと思います。

また、現在も事業部門ごとにボトムアップでさまざまな取り組みをされているようですが、会社全体の方針を掲げ、統合して進めていかないと、全体的に見た時に、重要課題に対して十分な取り組みができていない可能性があります。各部門で情報共有しながら全社的な取り組みとして進めていくと良いでしょう。

さらに、エネルギー業界や事業者ごとの特性や課題があると思いますので、単に既存のスキームを利用するのではなく、同業他社とも可能な範囲で協力して効率化を図りつつ、推進していくことを期待します。

## 1 原料調達について

### 東京ガスグループの現状と課題認識

現在、長期契約については5カ国から都市ガスの原料であるLNGを調達しており、例えば調達量の多くを占める豪州のプロジェクトでは、環境配慮をはじめ地域の雇用や職業訓練、人権配慮、地域コミュニケーション等について高いレベルで要請に対応しています。今後、調達先のさらなる多様化を進めていくことから、サプライチェーンマネジメントで配慮すべき要素に一層留意していきたいと考えています。

### 富田氏からのご意見

サプライチェーンマネジメントの取り組みを進めるにあたっては、まずは東京ガスグループとしてどのような方針で取り組んでいくのかを考え、その方針をお取引先に示し、お取引先の状況を把握しておくことが必要です。その際には、東京ガスが主体的に関わっていくことが重要なポイントです。新規開発プロジェクトについて、まず十分な事前調査をするということが大切であり、既存の評価ツール等を利用する場合には、それらが東京ガスグループの方針に本当に合っているかどうかをきちんと見極めてほしいと思います。

## 2 資材調達について

### 東京ガスグループの現状と課題認識

- 現在、購買の基本方針として、コンプライアンスの徹底、環境保全、リスク管理、労働・人権への配慮を掲げていますが、国際的な観点での再考が必要だと認識しています。現在、お取引先には会社概要のほか、コンプライアンスや環境への取り組みなどに関する調査を実施し、内容についてフィードバックを行うことで、PDCAサイクルを回しています。
- お取引先との信頼関係は大切であると考えており、ガス事業を知っていただくためにさまざまな施設を見学いただき、意見交換を行っています。また、私たちがお取引先の製造現場に訪問することもあります。しかし、すべてのお取引先を見て回れないため、どのように全体を把握していくのが課題となっています。

## 富田氏からのご意見

- 昨今、日本企業もグローバル化し、世界の情勢に合わせて取り組む課題が変わってきていますので、サプライヤーへの調査項目については日本の基準だけではなく国際的な基準を参考にすることが必要です。また、調査だけでは分からないことが多々あります。正確に答えられていない、質問の意図が理解できていないなど、的確に回答することは意外と難しいものです。現場の実情把握のほか、情報共有の場を提供することも大事であり、お取引先と継続的にコミュニケーションを図っていくことが望ましいでしょう。
- 現段階で無理にすべてのお取引先を見る必要はないと思います。リスクが高いと思われるところをサンプリングして見ていき、全体的な傾向を調査・把握したうえで監査等を行うのがより妥当と思われる。調査対象を、企業規模の大きい一次サプライヤーに限定するだけでは、問題の本質にたどりつけないことが多いと思います。そのため、東京ガスグループではどのような物を購入し、それらはどのような過程でつくられているのかといったサプライチェーンの構造を把握することでリスクの所在を見極め、調査の対象を決めるとよいでしょう。

## 3 サプライチェーンのマネジメントについて

### 東京ガスグループの現状と課題認識

今後、都市ガス事業を柱とした「富士山型経営」から、複数の大きな峰（事業）を持つ「八ヶ岳型経営」への変革をめざしていきます。そのため当社グループ全体のガバナンスという観点からサプライチェーンを総合的に考える必要がありますが、どのような進め方でマネジメントしていけばよいか課題と認識しています。

### 富田氏からのご意見

最近、業種ごとに共通のサプライチェーン管理のスキームができており、それを参考にする方法もあります。事業内容によってサプライチェーンの懸念事項は異なるため、東京ガスグループの展開する事業ごとに特性を分析し取り組んでいくことが大切です。海外の先進企業を参考にしながら、自社に合った評価指標なども含め検討し、想定リスクの洗い出しを行う方法もあります。無理にツールや枠組みを導入する必要は必ずしもないと思います。

### CSRに配慮した調達に向けたステップ



出典：『こうありたい「CSR調達」』 CSR調達入門書 -サプライチェーンへのCSR浸透-  
(一社) グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン サプライチェーン分科会

### ご意見を受けて

各部門でさまざまな取り組みを進めていますが、本日の意見交換を通じて、企業を取り巻く環境が急激に変化していること、CSRに配慮したサプライチェーンマネジメントに真摯に取り組む時期に来ていること、また、マネジメントを進めるうえで方向性を見極めることが大事であることを改めて実感しました。当社グループは、総合エネルギー企業としてグローバル展開を進めており、これまで以上に世界の流れを意識して対応していく必要があると考えています。今回いただいたご助言を踏まえ、グループ全体のガバナンスのなかでどのように取り組んでいくべきか検討し、他社の事例や社会から求められている要請についても念頭に置きながら、一步一步着実に取り組みを進めていきたいと思っております。



常務執行役員  
沢田 聡

## 「ステークホルダーダイアログ2015」

開催年月：2015年7月



当社グループは、2015～2017年度の主要施策として「総合エネルギー事業の進化」「グローバル展開の加速」「新たなグループフォーメーションの構築」を打ち出しており、施策を踏まえ、東京ガスグループのCSRについても重点活動の見直しを行うなど、グループ全体のCSRレベル向上に向けて取り組んでいます。これらの活動の一環として、2015年度のダイアログでは、富士ゼロックス株式会社 イグゼクティブ・アドバイザーの有馬利男氏をお招きし、グローバル企業としてのCSRを推進するうえで必要となる視点や課題についてお話しいただき、今後の参考としました。

### 参加者

CSR担当役員（取締役常務執行役員）、執行役員総合企画部長、執行役員原料部長、人事部長、コンプライアンス部長、環境部長、資材部長、海外事業部長、東京ガスエンジニアリングソリューションズ（株）執行役員海外事業企画部長、執行役員広報部長、広報部CSR室長

<関連リンク>

▶ [ステークホルダーダイアログ2015 \(PDF : 1,774KB\)](#) 

## ■ CSRワークショップ

当社グループ社員一人ひとりが社会に対する期待の変化を柔軟に捉え、社会課題を自分事として考えることを目的にCSRワークショップを開催しています。

### CSRワークショップ2016

開催年月：2017年2月

参加者：東京ガスグループ従業員 60名

当社グループにおいてグローバル展開の加速をはじめとした事業基盤の拡大が進んでいることを踏まえ、2030年に向けた世界共通の課題である「持続可能な開発目標Sustainable Development Goals (SDGs)」をテーマに開催しました。私たちを取り巻く国際社会では、先進国・途上国ともに環境や貧困といった世界共通の課題が山積していることをゲームを通じて学び、これらの課題に対して東京ガスグループでどのように貢献できるか活発に意見交換を行いました。参加者からは、「2030年に向けた社会課題のなかには多くのビジネスチャンスがあった」といった感想が寄せられました。



### CSRワークショップ2015

■ 開催年月：2016年2月

参加者：東京ガスグループ従業員 20名

CSRアジア日本代表の赤羽真紀子氏をお迎えし、アジアをはじめ世界中で起きている最新の社会課題や、各国企業の取り組み事例をご紹介いただいたほか、グループワークでは、「インフラのない村への支援」など、仮想のプロジェクトを例に活発に意見交換を行いました。参加者からは、「社会から企業に何が求められているかという視点をもつことの重要性を知った」「自社の強みを活かした社会の課題解決がビジネスチャンスにもなることが分かった」などの感想が寄せられました。

